

藤屋 リカ

日本国際ボランティアセンター
パレスチナ現地活動調整員



「私たちは変化を期待していた。しかしこれまでの激変を誰が予想していただろう」。先のパレスチナ自治評議会選挙でのハマス圧勝に、ヨルダン川西岸地区で地域医療に従事する医師はそう語った。

結果は「政治激震」だった。イスラム原理主義を掲げるハマスが74議席と過半数以上を獲得、候補者の乱立となったパレスチナ解放機構（PLO）主流派ファタハは45議席だった。

私はパレスチナ自治区で人道支援に携わって8年になるが、選挙後はどこに行っても今後の政治動向の話で、仕事の話も政治の話題に変わる。しかし、人々は混乱しているわけではない。普段通りの日常生活を営み、冷静に結果を受け止めながら新しい政権への動きを見ているようだ。

自治区のうちガザ地区はハマス支持者が多いが、西岸地区でも中選挙区の投票ではハマスがほとんどの地区で議席を獲得。議席独占地区もあった。ハマスはイスラエルの占領に対し武力闘争してきたが、同時に福祉・教育・医療分野で生活に密着した活動を展開し、社会活動への人々からの信頼は厚い。

一方、ファタハの自治政府は汚職や一部の人々への権力や富の集中等の問題を抱え、

◆ ハマス圧勝

和平プロセスは崩壊して希望は見えず、人々の期待に添えるものとは言い難かった。西岸のベツレヘム地区デイル・サラハ村に住む6人の子

脱貧困へ絶望からの叫び

どもの母親は「村の周りには（イスラエルによって）フェンスが張られました。隣のノーマン村は村全体がフェンスに囲まれ、村外に出るにもイスラエル軍の許可が必要で、この10年間、生活は良くなりませんでした。自治政府の関係者の豪邸や立派な車を

見ると悲しくなります。外国からの援助も私たちのところまで届いている実感はありません。あるものだけでも公正に使って欲しいです」と言う。夫は、以前はイスラエルへ出稼ぎに行っていたが、3年以上定職はない。

自由は制限され、医療・教育などへのアクセスも十分に保障されていない。「分離壁」は西岸地区に食い込み、入植地をイスラエル側に取り込む形で建設が進み、土地や仕事を失った人々もいる。

パレスチナの人々は「現状が変わる」ことを願い、既存の政権を選ばなかった。外務省によると、日本政府は過去10年間、パレスチナ自治区に総額約5億3千万ドルの支援をしてきた。この際、過去の支援は最も必要な人々に

自治区全体の人口の約半数が1日2食という貧困ライン以下の生活。村落部の人々の生活は特に困難を極める。加えて西岸地区内はイスラエル人入植地とイスラエル側を結ぶ道路で細かく分断されて村落は孤立。先の母親の話にあるように、人々の移動の

集中度は高くなく、村落部の人々の投票行動が影響したとも思える。選挙結果は、このような弱い立場にあり、最も声が届きにくい人々の「今の生活を少しでも良い方向に変えて欲しい」という絶望の中からの叫びのようなものだったのかも知れない。

政権変更に伴い、今後のパレスチナ支援そのものが問われることも予想される。その際には特に弱い立場の人々の声に耳を傾けて欲しい。人々の元に確実に届く支援と、そうした支援を可能にする外交政策が今こそ必要とされているのではないだろうか。